部　活　動　の　思　い　出 (※1)

高普第７回卒　泉 田　誠 男 (※2)

昭和 27 年、希望に胸を膨らませて入学し、３年間を楽しく過ごした。還暦を迎える歳となっても、鮮明な思い出があるということは、正に青春の一ページだった証だ。

色々なクラブに入り、そこそこに活動したため、強い友情の絆を造れたと思う。

合唱クラブでは少人数ながら混声四部で県大会にも出場し講評もまあまあだった。２年生の時、バレー部の吉田先生 (※3) の強い要請で入部した。中村一中時代にバスケットボールで相双地区の代表となり県大会にも出場したため練習で鍛えたジャンプ力を買われて、最初から前衛のライトにポジションを得た。

無我夢中で練習し、仙台二高との練習試合に挑んだ。ジャンプ力だけはネットの上に肩まで出るほどだったが、両手があとからあがるバスケットのジャンプで、スパイクされたボールがまともに顔面を直撃し、相手コートに突き刺さりポイントとなった。ベンチでは監督が腹を抱えて笑い転げていた。

県大会を勝ち進み、福島県での全国大会に出場することができた。開会式で大会旗の掲揚をすることになったが、大会の歌を誰も知らなかった。なんとか雰囲気にあわせて無事役目を果たした。

３年生での初めての県大会では、第一試合で膝はガクガク、喉はカラカラ完全に舞い上がっていた。相手チームはバレー部ができて早々ということだったが、優勝したのに、このチームに一番多くの点数を取られた。

秋田県能代の東北大会、徳島県小松島でのインターハイと転戦し、各地の風物にも接することができた。後に、この大会で知り合った他県の代表と、同じ職場で奈良県大会に出場し優勝した。近畿地区大会にも出たが、神様とも思っていた実業団のチームとも対戦することができたのも、吉田先生の強いお誘いがあり、バレーの経験を持つことができたためと感謝している。

３年生の夏も終わりスポーツの活動も終わったので、今度は高野君が主演をしていた演劇部に入り、大道具係となった。秋は文化のシーズンとか理由を付け、県大会に参加した。

３年間に、バレー部・合唱クラブ・演劇部に参加し、それぞれ県大会まで出ているのだから、強烈な思い出として残っている。

在学中に長友公園に飛来した、新聞社のヘリコプターに生徒会長が体験搭乗したのを見ていたが、その時の機長が自分の上司となる不思議な縁があった。

古い校舎も建て替えが決まり、壊れるままに板壁がストーブの中に消えていった。中央廊下の両側に平屋の教室、階段教室、汗くさい部活の部屋、個性豊かな諸先生方、現在の鉄筋コンクリートの中に思いでを探すのは困難だ。

卒業し飛行機乗りを目指し、40 年余飛び続けたが、今思えば相馬高校の３年間は、正に基礎を構築してくれた３年間であった。

いまだに羽ばたきたい、古鳥の思いで。

(※１) 創立百周年記念誌『相中相高百年史』〈1998（平成 10）年７月６日発行〉　第四部「思い出の記」より。

(※２) 昭和 30（1955）年卒、中村出身。

(※３) 吉田孔彦　相中第 40 回・昭和 17（1942）年卒、中村出身。

相中嘱託：昭和 21～22 年、相高教諭：昭和 26～47 年及び昭和 55～59 年。

（ 転記＆※脚注　村山 ）